

長期戦略:テーマ 「対面的なコミュニケーションの促進」

提出日 2022年 4月15日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの 責任者 (統轄部署)	山田教務機構長 (教務機構)	実施計画の 担当部署	学長室、神戸三田キャンパス事務室、 西宮聖和キャンパス事務室
---------------------------	-------------------	---------------	-----------------------------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(11)-③ (旧中期計画:関西学院大学におけるコモンズ展開の将来像について を継承) 関西学院大学におけるコモンズ展開の将来像について ～アカデミックコモンズにおける成果に基づく西宮聖和キャンパスのコモンズとの連携～	2017 年度 2020 年度	2019 年度 2022 年度	必要なし	不要
内容				
<p>目的</p> <p>神戸三田キャンパスにアカデミックコモンズを 2013 年 4 月に開設し、2015 年度末まで 3 年間で学生支援体制を構築してきた。これは、『学生の自主的な活動～個人の自由な発想に基づく知的活動～』と『学生の主体的な学習～授業と連携した自発的な学習～』の 2 つの側面から、学生の活動を支援するというものである。授業課題(フォーマルラーニング)の学習場所という位置づけに留まらず、学生が興味を持ったことにグループで挑戦し、探究・発表すること(インフォーマルラーニング)も広く学びと捉え、支援する場と位置付けている点が、他大学に類を見ない独創的な取り組みとなっている。</p> <p>そこで、(1)アカデミックコモンズにおいて『学生の自主的な活動』をさらに発展(内容の多様化、レベルの向上、関与する学生数の増加)させること。(2)この特徴的な取り組みについて、全学的な展開ができるよう神戸三田キャンパスと西宮聖和キャンパスのコモンズの間で具体的な連携プログラムを模索することを目的とする。</p> <p>2017 年度から 3 年計画で目的達成に向け取り組んできたところ、2017 年 4 月に開設した西宮聖和キャンパス「リプラ」において、アカデミックコモンズの取り組みを参考にしたアクティビティや連携イベントを企画・実施し成果をあげている。現時点で開設 3 年目を迎える西宮聖和キャンパス「リプラ」では、まさに学生支援方法や体制を構築しているところである。開設時期や運営方法が異なるラーニングコモンズにおける学生の活動状況にはそれぞれの特性があるため、継続して両キャンパスの活性化委員会が主体となり専門家コーディネーターと連携しながら、総合大学だからこそできる、より効果的な連携プログラムの開発・展開をしていきたい。</p> <p>内容</p> <p>アカデミックコモンズにおける『学生の自主的な活動』である「プロジェクト」活動や「アクティビティ」に対し、専門家コーディネーターが中心となり、面談やスキルアップ講座などの支援を行っている。コーディネーターは、学生が「今」抱える課題に対して必要な支援を専門家の立場から行き、同時に自主的に活動する学生に何かを強制することなく、一定程度の距離感を保ちながら、専門的な立場から教育的効果を高められることから、配置を継続するとともに、支援内容の発展的枠組みを検討・実施する。</p> <p>また、西宮聖和キャンパスのコモンズにおける取り組みの一つとして、「プロジェクト」や「アクティビティ」に関するアカデミックコモンズとの連携や共同開催について、西宮聖和キャンパスのコモンズの運用コンセプトを尊重しながら、3 年を目途に具体的な手法や仕組みを検討し、実施する。</p> <p>具体的には、コーディネーターが西宮聖和キャンパスのコモンズに滞在する機会を設け、各コモンズの活性化委員会と連携しながら、キャンパス・学生特性を勘案し、専</p>				

門的観点からのアドバイスを受け、実現可能な方法を模索・検討する。

さらに、上記取組におけるチューターによる支援方法および、コーディネーターによる学生支援の体系的モデルの構築と学生活動の評価指標の策定について検討する。

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	神戸三田キャンパスにおけるアクティビティ数	神戸三田キャンパスのアカデミックコモンズにおいて、学生たちが自主的に新たなアクティビティの継続が可能な体制を構築する。そのアクティビティの展開数。
指標2	神戸三田キャンパスにおけるプロジェクト数	神戸三田キャンパスのアカデミックコモンズにおいて、学生たちが自主的に新たなプロジェクトの継続が可能な体制を構築する。そのプロジェクトの展開数。
指標3	神戸三田キャンパスにおけるプロジェクトに関与する学生数	神戸三田キャンパスのアカデミックコモンズにおいて、学生たちが自主的に新たなプロジェクトの継続が可能な体制を構築する。そのプロジェクトに関与する学生数。
指標4	西宮聖和キャンパスにおけるアクティビティ数	西宮聖和キャンパスのコモンズ「リプラ」において、学生たちが自主的にアクティビティを実施・参加することが継続可能な体制を構築する。そのアクティビティの展開数。
指標5	西宮聖和キャンパスにおけるプロジェクト数	西宮聖和キャンパスのコモンズ「リプラ」において、学生たちが自主的にプロジェクトを立ち上げ実施することが、継続可能な体制を構築する。そのプロジェクトの展開数。
指標6	西宮聖和キャンパスにおけるプロジェクトに関与する学生数	西宮聖和キャンパスのコモンズ「リプラ」において、学生たちが自主的にプロジェクトを立ち上げたり、参加したりすることが継続可能な体制を構築する。そのプロジェクトに関与する学生数。
指標7	コラボレーションアクティビティ数	神戸三田キャンパスのアカデミックコモンズと聖和キャンパスのコモンズ活性化委員会が、連携、協力、交流を図りながら、コラボレーションによるアクティビティを展開する。そのアクティビティの展開数。
指標8	コラボレーションプロジェクト数	神戸三田キャンパスのアカデミックコモンズと聖和キャンパスのコモンズ活性化委員会が、連携、協力、交流を図りながら、コラボレーションによるプロジェクトを展開する。そのプロジェクトの展開数。

目標1<指標1>神戸三田キャンパスにおけるアクティビティ数

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	100	100	100	100	100	100		
実績	68	68	62	13				

目標2<指標2>神戸三田キャンパスにおけるプロジェクト数

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	10	15	18	20	23	25		
実績	23	25	27	18				

目標3<指標3> 神戸三田キャンパスにおけるプロジェクトに関与する学生数

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標				160	170	180		
実績				128				

目標4<指標4> 西宮聖和キャンパスにおけるアクティビティ数

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	20	20	20	20	20	20		
実績	30	20	15	2				

目標5<指標5> 西宮聖和キャンパスにおけるプロジェクト数

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標				5	5	5		
実績				0				

目標6<指標6> 西宮聖和キャンパスにおけるプロジェクトに関与する学生数

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標				30	35	40		
実績				0				

目標7<指標7> コラボレーションアクティビティ数

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	0	1	2	2	3	3		
実績	1	0	0	0				

目標8<指標8>コラボレーションプロジェクト数

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	0	1	2	2	2	2		
実績	2	0	0	0				

2. ロードマップ

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
アカデミックコモンズにおける成果の全学化	策定段階	神戸三田キャンパスと聖和キャンパスのコモンズとの連携方法の模索	コラボレーション企画の検討・実施	コラボレーション企画の検討・実施	コラボレーション企画の検討・実施	コラボレーション企画の検討・実施	コラボレーション企画の検討・実施
	2022年3月末段階	アカデミックデイ(幼児・小学生対象のワークショップ「学びのお祭り」)としてコラボレーション企画の実施	情報共有しながら各キャンパスで企画を実施	アクティビティ・アカデミックデイでコラボレーション企画を実施予定	アクティビティ・アカデミックデイでコラボレーション企画を実施予定	アクティビティ・アカデミックデイでコラボレーション企画を実施予定	アクティビティ・アカデミックデイでコラボレーション企画を実施予定
		2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2022年度
	策定段階						
	2022年3月末段階						

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】								
非公開								
経費 単位:万円	2018 年度 承認	2019 年度 承認	2020 年度 承認	2021 年度 承認	2022 年度 承認	2023 年度	2024 年度	左記以降
非公開								
人員・人件費 単位:万円	2018 年度 承認	2019 年度 承認	2020 年度 承認	2021 年度 承認	2022 年度 承認	2023 年度	2024 年度	左記以降
非公開								

4. 進捗状況・得られた成果

2017 年度	<p>■アカデミックコモンズにおける成果の全学化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖和キャンパスとの連携プログラムを模索する中で聖和キャンパスのラーニングコモンズの設置背景、事情に合わせた取り組み内容のチューニングを、コーディネーターという専門家の視点を取り入れて検討を進めた。 ・当初計画では 2018 年度に聖和キャンパスのラーニングコモンズとの具体的な連携イベントの実施を計画していたが、今後の展開を見据え、前倒しで、聖和キャンパス ラーニングコモンズ「リプラ」において、聖和、神戸三田、両キャンパスの学生が共同で行うイベントを実施。コーディネーターと各キャンパスの担当者が連携し、イベント参画学生に対する支援を行った。
2018 年度	<p><神戸三田キャンパス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックコモンズ・プロジェクトを中心に、学生の自主的な活動としてより質の高い目標達成が実現できるよう、学生が「今」必要としているサポートを面談やスキルアップ講座を通して行うことで、アカデミックコモンズ活性委員会と連携し体系的に支援することができた。 <p><西宮聖和キャンパス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックデイにコーディネーターの指導が入ったことで、学生は企画書の作成方法、チーム運営、プログラム運営等を学ぶことができた。
2019 年度	<p><神戸三田キャンパス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019 年度より、アカデミックコモンズ・プロジェクトに「SDGs・タイプ」を新設。1 年間で明確な目標を決めて活動する「リード・タイプ」と「SDGs・タイプ」は各々10と9、合計19プロジェクト(過去最多)を採択。2018 年度に引き続き、アカデミックコモンズ・プロジェクトを中心に、アカデミックコモンズ活性化委員会と連携し体系的に支援することができた。 <p><西宮聖和キャンパス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比して早い時期からコーディネーターに入ってもらうことが出来たため、アカデミックデイに向けて学生は丁寧な指導を受けることができた。残念ながら、新型コロナウイルス感染症拡大の為、アカデミックデイの中止を決めたが、多くの子ども達から参加申し込みがあり、近隣住民や小学校からの聖和キャンパスの学生達への期待は十分感じる事ができた。 ・アクティビティの数は昨年度より減少となったが、新たなイベントをラーニングコモンズで開催することができた。
2020 年度	<p><神戸三田キャンパス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、キャンパスへの入構禁止や制限が設けられる中で、アカデミックコモンズ・プロジェクトは募集期間を延長したことに加え、二次募集を行い、「リード・タイプ」と「SDGs・タイプ」各々9、合計18プロジェクトを採択。アカデミックコモンズ活性化委員会と連携し、Zoom を活用してオンラインで面談を行うなど、学生の安心・安全に配慮しながら活動を支援することができた。アクティビティ数は昨年度と比較して大幅に減少しているが、対面方式で開催する「クレセントアワー」を中止したことによるものである。 <p><西宮聖和キャンパス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・残念ながら引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Short Activity、Long Activity、アカデミックデイの開催はできなかった。しかしながら、ZOOM を用いた上記以外のアクティビティとして、双方向型と対面式のワークショップを各1件実施することができた。
2021 年度	
2022 年度	
2023 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2018 年度	<p>2018 年度以降の計画をふまえ、2019 年度以降は、「中期総合経営計画にて継続希望」する。</p> <p>神戸三田キャンパスにおけるアカデミックコモンズ活性化委員会とコーディネーターの連携による学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックコモンズにおける、プロジェクトやアクティビティに参加する学生への面談やスキルアップ講座の提供 ・学生支援の体系的モデルの構築と学生活動の評価指標の策定 <p>西宮聖和キャンパスにおける他キャンパスのコモンズ活性化委員会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックコモンズ活性化委員会との連携 ・コーディネーターを活用した学生支援方法の検討 ・神戸三田キャンパスと連携したプロジェクト、アクティビティの実施の検討
2019 年度	<p>神戸三田キャンパスにおけるアカデミックコモンズ活性化委員会とコーディネーターの連携による学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトが増加することで生じる多様性やレベルの差に対して、構築してきた支援内容を効果的に対応させていく方法を検討 ・2018年度の実績を踏まえ、プロジェクトとして掲げた目標の達成を可視化できる方法を検討 <p>西宮聖和キャンパスにおける他キャンパスのコモンズ活性化委員会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターを活用した学生支援方法の検討(アカデミックデイに加え、プログラミングに特化したコーディネーターの活用) ・神戸三田キャンパスと連携したプロジェクト、アクティビティの実施の検討
2020 年度	<p>神戸三田キャンパスにおけるアカデミックコモンズ活性化委員会とコーディネーターの連携による学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの多様性やレベルの差に対して、構築してきた支援内容(スキルアップ講座、面談など)を効果的に実施する ・新型コロナウイルス感染症防止対策中における活動の可能性を検討する。具体的にはオンラインによる開催やプロジェクト同士(聖和キャンパスとの連携含む)のコラボレーションを検討する。また、当該活動に必要な新たな支援内容を活性化委員会として検討する。 <p>西宮聖和キャンパスにおける他キャンパスのコモンズ活性化委員会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症防止対策中において、アカデミックデイのようなイベントの開催は難しいため、オンライン等新たな形式での実施を思案すると共に、神戸三田キャンパスとの連携についても検討する。 ・新型コロナウイルス感染症防止対策中において、コーディネーターの来校が難しいため、新たな活用についても検討する。
2021 年度	<p>神戸三田キャンパスにおけるアカデミックコモンズ活性化委員会とコーディネーターの連携による学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新設・再編された 5 学部それぞれでオリエンテーションを行う。 ・昨年度にひきつづき、プロジェクトの多様性やレベルの差に応じた効果的な支援を行うが、特に活動が活発化している SDGs に焦点をあてたサポートを検討する。 ・新型コロナウイルス感染状況に応じ、オンラインの活用や感染予防策の指導なども含めた学生支援を検討する。 <p>西宮聖和キャンパスにおける他キャンパスのコモンズ活性化委員会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症防止対策中において、アカデミックデイのようなイベントの開催は難しいため、オンライン等新たな形式での実施を思案すると共に、神戸三田キャンパスとの連携についても検討する。 ・新型コロナウイルス感染症防止対策中において、コーディネーターの来校が難しいため、新たな活用についても検討する。
2022 年度	

2023 年度	
2024 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2016 年度	活動成果の「見える化」を実施し、学生ニーズを把握すること。2018 年度以降は、2017 年度の取り組みを見て判断する。
2017 年度	活動成果の「見える化」を実施し、学生ニーズを把握すること。西宮聖和キャンパス内コモンズとの連携取り組みの促進については、詳細が固まった段階で財務部が査定する。
2018 年度	KSC アカデミックコモンズと西宮聖和キャンパスのコモンズとの連携を認めます。引き続き、活動成果の「見える化」を実施し、学生ニーズの把握に努めてください。なお、次年度より開始する聖和キャンパスでの新たなプロジェクト育成支援に関する業務委託費については、具体的な内容が決定した後に、将来構想推進 WG での承認を得た上で、予算外申請してください。
2019 年度	KSC アカデミックコモンズと西宮聖和キャンパスのコモンズとの連携を認めます。引き続き、活動成果の「見える化」を実施し、学生ニーズの把握に努めてください。 また、消耗品費・印刷費については、ガイド内で対応してください。
2020 年度	KSC アカデミック・コモンズと聖和キャンパスのコモンズとの連携を認めます。引き続き、活動成果の「見える化」を実施し、学生ニーズの把握に努めてください。 また、消耗品費・印刷費については、一般事業ガイド予算で対応してください。
2021 年度	KSC アカデミック・コモンズと聖和キャンパスのコモンズとの連携を認めます。ただし、コーディネータ委託費は、KSC アカデミック・コモンズにおける費用を認めますが、聖和キャンパス分は、活動計画の詳細が定まった段階で、将来構想推進 WG の了承を得て、予算外申請をしてください。 また、消耗品費・印刷費については、一般事業ガイド予算で対応してください。
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019～2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> ・KSC におけるアカデミックコモンズは、学生主導のプロジェクトが進んでおり、両学部生が交わることで、文理融合キャンパスの特長が表出されつつある。 ・聖和におけるリプラは、学生主導のプロジェクトとしては継続性が厳しいが、「子ども」をキーワードとした活動などは進展していく可能性がある。 ・丸善へ委託しているコーディネータのプロジェクト運営等への適切な助言・支援が学生らに良い影響を与えている。 	継続 ・ 廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンズオン・PBL 型教育の拡充に合わせた学修スペースの再検討。

【フェーズ II (2022～2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	